

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36-6503

渥美半島の野鳥

◇渡り鳥の中継地

西南西に延びる特

徴のある形の渥美半島。

秋に西に向かう渡り鳥が集中

し、多くの群れが通過します。半島

内に大きな干潟を有し、なだらかな

低い山の散在する渥美半島は、長距

離を移動する渡り鳥にとって貴重な中

継地となっています。

◆伊良湖岬

伊良湖岬は、西行の和歌（山家集）や芭蕉の俳句（笈の小文）にみ



●サシバ(伊良湖岬)

られるよう、古くからタカの渡りの名所として全国に知られていました。タカの渡りに関しては、昭和47年10月にこの地を訪れたバードウォッチャーによって再び注目され、タカの渡りのメッカとして脚光を浴びることになりました。

伊良湖岬で観察された渡り鳥は200種を超え、年間数十万羽が記録されていますが、夜間通過して行くものも多く、その数は計り知れませんが、その中で、タカ・

ハヤブサの仲間ハヤブサを主体にノスリ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、チゴハヤブサ、オオタカなど、18種類、5000羽から1万羽が記録されています。

サシバは、9月初旬から秋の渡りを開始し、10月中旬に終了します。地形や風を利用して、越冬地の南西諸島から東南アジアまで南下します。昭和50年代にはシーズンに2万羽前後、1日に数千羽を記録することもありましたが、平成20年以降は、シーズンに数千羽と、かつての5分の1程

度まで減少してしまいました。

サシバは、人里近くの低い山を繁殖地とするため、開発による影響を受けやすく、さらに乾田化による餌不足も減少の要因の一つです。

タカ以外の渡り鳥も渥美半島に沿って春、秋と通過し、ヒヨドリのように百から数千羽の群れとなるものもあります。ツバメの仲間、セキレイ、カワラヒワ、メジロなどの小鳥の群れが8月から11月にかけて渡って行く様子が観察できます。

◆汐川干潟・福江干潟

渥美半島の三河湾側には、日本でも最大級の干潟である汐川干潟（約280ha）と福江干潟（約870ha）があります。汐川干潟はかつて2000ha以上もある広大な干潟でしたが、昭和40年代から始まった東三河臨海工業用地の造成のためにその大部分が埋め立てられました。環境保護団体の埋め立て反対運動などにより途中で工事計画が中止され、現在の干潟部分が保全されることになりました。平成13年には環境省により汐川干潟を含む三河湾が「重要湿地」に

選定されています。

これらの干潟には、ゴカイ類、ウミナナなどの貝類、チゴガニなどの甲殻類をはじめ、多種多数の底生生物が生息しています。周辺に繁茂するヨシや塩生植物と共に水質の浄化の一端を担っています。また、餌場として、ここを訪れるシギ・チドリやカモなど数多くの渡り鳥を支えています。汐川・福江の干潟で観察された野鳥は250種ほどで、時には海外で標識された鳥が、エサをついばんでいるところも観察されます。

（執筆委員・渡邊幸久）



●オーストラリアで標識を付けられたキアシシギ(伊川津、花井岳晴氏撮影)